

シンポジウム

「よりよき市民性教育のためにードイツにおける政治教育の検討と語学教育の場での実践を考える」

世論の力で脱原発へと導いたドイツ。その背景には、暗いナチスの過去を許した反省に立ち、歴史の事実から目をそらすことなく自身の目で見て考える力を育ててきた国を挙げての努力がある。市民一人ひとりに民主主義が根付いているのは、まさしくPolitische Bildung「政治教育（民主的市民性教育）」の成果であろう。成人年齢が引き下げられた日本でも、ますます市民性教育への関心が高まっているが、果たして「市民一人ひとりの民主主義を育てる教育」を行っていると言えるだろうか。本シンポジウムでは、日本の手本となるドイツの市民性教育を紹介するとともに、教育現場での実践を考える。

日時 2018年9月8日(土) 9:30~17:30

会場 同志社大学 今出川キャンパス「良心館」RY305教室
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

参加費無料

プログラム

第1部 9:30~13:25 「報告と検討」(休憩 12:00~13:00)

- ・「ドイツ連邦政治教育センターの概要」 中川 慎二 (関西学院大学)
- ・「ドイツにおける難民・移民問題」 渡邊 紗代 (同志社大学)
- ・「過激派対抗プログラムと教育・教化・監視の境界づけ」 ベティーナ・ギルデンハルト (同志社大学)
- ・「連邦政治教育センターのカリキュラム(教育内容・教育方法・教材)の意義と課題」 寺田 佳孝 (東京経済大学)
- ・「現代史はどう教えられているか」 西山 暁義 (共立女子大学)
- ・「政治教育はどうあるべきか」 木部 尚志 (国際基督教大学)

第2部 13:30~14:30 「総括と討論」

第3部 14:40~17:30 「市民性教育の展開にむけて」

- ・「ドイツで見た『政治教育』の現場」 三輪 聖 (ハンブルク大学)・名嶋 義直 (琉球大学)
- ・「クラスにおける政治的土壌づくり」 野呂 香代子 (ベルリン自由大学)
- ・「現役教師によるワークショップ」 (コーディネーター 野呂 香代子・三輪 聖)



京都市営地下鉄 烏丸線
今出川駅1・3番出口 からすぐです

●なお当日は夏季休暇中につき、学内の食堂・売店は閉まっております

第1部 「報告と検討」

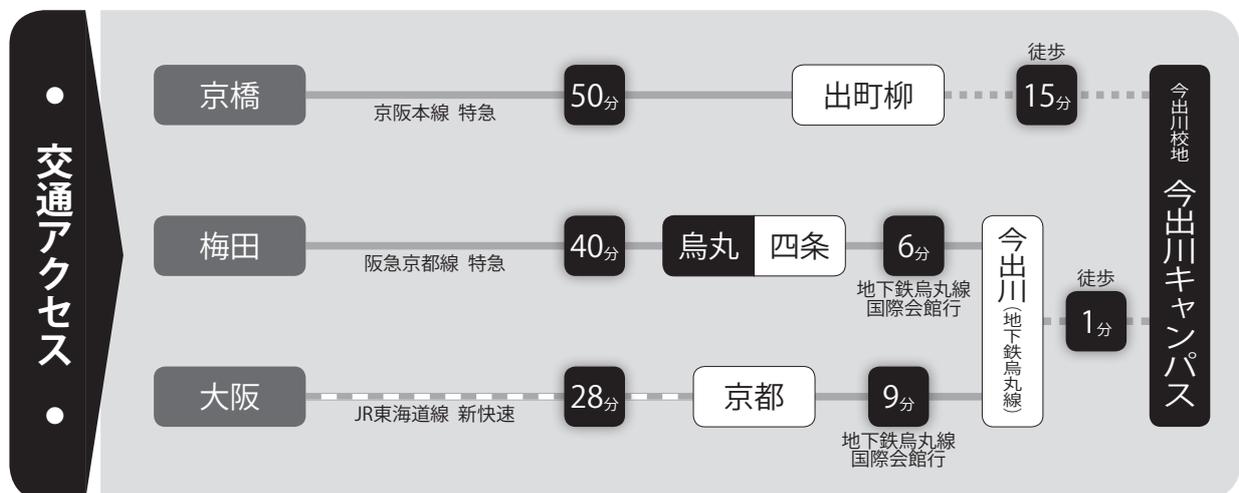
「ドイツにおける市民性教育とは」

最も民主的なワイマール憲法を持ちながらナチズムの誕生を許し、戦後は東西分裂を経験したドイツには、民主主義を守ろうとする強い意志がある。1952年に設立された政府管轄の「連邦政治教育センター Bundeszentrale fuer politische Bildung (bpbと略)」は、その活動を通して、小学生から成人に至るまでの国民一人ひとりに、民主主義の基本となる「自分の目で見聞きして考えるという自立した思考を身につける教育」を実践している。第1部ではセンターの理念と組織、出版物、活動形態などを紹介し、教育現場において活用される具体例を示す。さらに過去の歴史はどう教えられているか、また現在もっとも議論されているいくつかのテーマについて、どのように教えられているかを見る。最後に、右翼の台頭が著しいドイツの現状を分析し、市民性教育の実態を批判的に分析する。

第2部 「総括と討論」

第3部 「市民性教育の展開にむけて」

日本社会の多様化は年々進行している。政府は「移民」とは明言しないものの、実質的には多くの業種で外国人の就労や技能研修が可能である。そしてその流れは拡大傾向にある。言い方を換えれば「共に生きる人」の多様性が高まっていると言えるが、社会の市民性はそれに併せて高まっているとは言い難い。では研究者や教育者は市民性の涵養に向けて何ができるか。その答えの1つが市民性教育の展開である。その中でも言語教育は高い可能性を有している。そこで第3部では、第1・2部の「理論」的検討を受けて、「現場」に焦点を当てる。まずドイツにおける政治教育の実践例を共有し、続いて言語教育における試みを報告する。そしてワークショップを行い、市民性教育の展開にむけて「自分たちの現場」で何ができるかをシンポジウム参加者が主体となって考える。



京都市営地下鉄 烏丸線 今出川駅1・3番出口 からすぐです